



評価のポイント

CL-3.専門性の開発能力

【58-3】論理的思考の基本：ラテラルシンキング

以下の事例についてラテラルシンキングを意識して、痛みの原因を思考してみましょう。

<事例>

- ・自力で体位調整ができないADLのレベルにある患者Aの病室に訪室した担当看護師。
- ・患者Aの体位を側臥位から仰臥位にしたところ、患者Aが「背中の辺りが少し痛いような気がする」という訴えがあったが、その後すぐに「痛くなくなったかも」と言った。
- ・そこで、担当看護師は予定通りに患者Aを座位（sitting position）にした。
- ・しばらくすると、患者Aは「やっぱり、背中の辺りが痛い」と訴えはじめた。
- ・担当看護師はベッドを水平位に戻してみたところ、患者Aの背中の痛みは消失した。
- ・その直後のバイタルサインをはじめとする全身状態に異常を示す所見は認められなかった。

ラテラルシンキング（水平思考）とは問題を解決するために固定観念や既存の論理にとらわれず、「物事を多角的に考察する」、「新しい発想を生み出す」ための思考法です。常識的な既成概念や固定観念に囚われず、前例のない結論を導き出せる。また、結論へ辿り着くまでが速く、結論がひとつとは限らないことを意図的に思考することにある。

事例が訴える背中の痛みは、何によって生じているのか。器質的な原因なのか、機能的な原因なのか、また、物理的な要因なのか、など様々な視点から考察することが期待される。またこのようなことも稀ではないため、患者の身体に関連したことが原因ではなく、ケアの際に迷入してしまったシリンジのキャップが原因の場合も、ベッドやマット、シーツなどのリネン類、病衣が原因の場合もある。何れにせよ、常識の踏襲から脱却した発想を思考し、共有することが大切であると考え。